

土佐市出身の 偉人たち

People



Saibara
Seito

さい ばら せい とう
西原 清東

1861－1939（高岡郡出間生まれ）

のちに「テキサスのライス・キング」と称された西原清東は、幕末、高岡郡出間村（現・土佐市出間）の郷土の家に生まれました。自由民権運動の闘士として活躍。代言人（弁護士）として神戸に転居し、明治31年には国会議員となり、32年には同志社大学総長に就任。しかし、35年にすべてを投げ打ってアメリカに留学。2年後にテキサス州に農場を創設し、米作で大きな成功を収めました。

波乱の生涯をおくった
テキサスのライス王



Nakajima
Nobuyuki

なか じま のぶ ゆき
中島 信行

1846－1899（高岡郡塚地生まれ）

高岡郡塚地（現・土佐市塚地）に生まれた中島信行は、幕末、勤王の志士として活動。脱藩後は、坂本龍馬の海援隊に参加しました。維新後は新政府に出仕し、官界で活躍しますが、明治14年、板垣退助らと自由党を結成し、副総裁に就任します。明治23年の第1回総選挙で当選し、初代衆議院議長に就任。イタリア特命全権大使、勅選貴族院議員などを務め、29年には男爵を授けられます。

海援隊で活躍したのち、
自由民権運動の中心人物へ

の なか けん ざん
野中 兼山

1615－1663（播州姫路生まれ）

治水灌漑による新田開発など藩政改革を推し進めた土佐藩執政。土佐市の用水で、今も農地などに水の恵みをもたらしている「鎌田井筋」も野中兼山が手掛けた事業です。田畑の灌漑用として築造され、幹線と支線の総延長は約50kmにも及びます。土佐藩の礎となるさまざまな事業を行った兼山でしたが、過酷な賦役や厳格な性分が敵を生み、のちに失脚してしまいます。

鎌田井筋を築いた
藩政時代初期の名政治家

じょん まん じ ろう
ジョン 万次郎

1827－1898（土佐国中濱村生まれ）

幕末の日本に海外の知識を持ち帰り、坂本龍馬にも影響を与えたと言われるジョン万次郎。アメリカに渡ることになったのは、万次郎が漁師として乗り込んでいた、ここ土佐市宇佐から出港した漁船が嵐で遭難。アメリカの捕鯨船に救われたことがきっかけでした。帰国した万次郎は、英語や造船、航海術、諸外国事情などを日本にもたらし、日本の近代化に尽力しました。

日本初の国際人は
宇佐から世界へ旅立った



Wnaka
Kenzan

土佐市
ゆかりの
偉人たち



John
Manjiro



土佐市はときに、自然の猛威にさらされてきました。なかでも、たびたび水害の被害を受けてきたのが、市の中心部を横断する波介川流域。かつては台風や豪雨によって容易に氾濫し、まちや田畑が浸水していました。

自然災害のないまち、安心して暮らせるまちへ。豊かな環境と調和させつつ、波介川を制御する「土佐市百年の大計」ともいわれる事業を実施。計画から45年の曲折を経て、平成24年、ついに波介川導流路の運用を開始しました。今後は南海トラフ地震を想定し、海岸部などで防災の徹底を目指します。



波介川河口導流路通水記念碑

安全と豊かな環境の両立を

波介川潮止堰



A Gift for the Future

Nature isn't always a blessing, and sometimes Tosa City is damaged by typhoons or heavy rains. Flooding along the Hage River is always a possibility, so in 2012, anti-flood devices were installed along the Hage River, ensuring a peaceful and safe environment for future generations.

未来へ残す
安心

